

令和3年度(2021年度)

管理事業名	歴史文化まちづくりセンター事業			総合計画の体系	大綱 7 都市魅力 政策 2 文化・スポーツに親しめるまちづくり 施策 1 文化の振興
主な歳出 予算科目	一般会計	(款) 2	総務費	(項) 1	総務管理費 (目) 24 歴史文化まちづくりセンター費
部局名	都市魅力部	予算執行所屬	文化スポーツ推進室		
予算大事業名	上記以外の歳出予算科目及び予算大事業名				
事業の目的と概要 【目的】 吹田の歴史と文化のまちづくりに関する市民相互の交流と連携の促進を図り、地域に息づく歴史及び文化を保存し、発展させることにより、まちに個性、魅力及び潤いをもたらし、地域社会の発展に寄与することを目的としています。 【概要】 ・歴史文化まちづくりセンターの施設管理運営 ・施設の特性をいかした文化教養講座や季節行事、伝統芸能行事等の事業を実施					

I 事業の成果(実績)

指標名	単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	成果指標の定義
貸館利用者・見学者	人	16,835	6,240	8,643	貸館利用者・見学者の合計
催事開催数(市主催・補助事業)・事業参加者数	事業数 実施数 参加者	38 58 4,370	22 30 426	38 58 1,604	市主催及び指定管理者による自主事業イベント等開催数の合計及び参加者数
成果の説明	新型コロナウイルス感染症の影響により、施設の休館や事業中止等の対応を行ったため、感染症拡大以前と比較すると貸館利用者・見学者・事業参加者数ともに減少しました。 参加人数の制限やオンライン講座、動画配信等、感染症拡大防止対策を徹底し、古民家という施設の特性をいかしたイベント等の事業を実施しました。				

II 財務情報

◆行政コスト計算書

(単位:千円)

勘定科目	令和元年度	令和2年度 A	令和3年度 B	差額 B-A
地方税	-	-	-	-
分担金及び負担金	-	-	-	-
使用料及び手数料	781	781	722	△59
国庫支出金(経常費用充当)	-	-	-	-
府支出金(経常費用充当)	-	-	-	-
財産収入	-	-	-	-
寄附金	-	-	-	-
他会計からの繰入金	-	-	-	-
受取利息及び配当金	-	-	-	-
その他	84	22	47	25
経常収入 小計(a)	865	803	769	△34
給与関係費	5,360	5,257	5,157	△99
物件費	24,343	23,927	25,638	1,710
維持補修費	649	-	693	693
社会保障扶助費	-	-	-	-
負担金・補助金・交付金等	2,571	2,628	2,949	321
特別会計への繰出金	-	-	-	-
減価償却費	6,066	6,066	6,066	-
徴収不能引当金繰入額	-	-	-	-
賞与引当金繰入額	461	460	406	△54
退職手当引当金繰入額	112	203	249	47
支払利息	0	0	0	△0
その他	-	-	-	-
経常費用 小計(b)	39,562	38,541	41,158	2,617
経常収支差額(a)-(b)=(c)	△38,696	△37,738	△40,389	△2,651
特別収入	-	-	-	-
固定資産売却益	-	-	-	-
その他	-	-	-	-
特別収入 小計(d)	-	-	-	-
特別支出	-	-	-	-
固定資産除売却損	-	-	-	-
その他	-	-	-	-
特別支出 小計(e)	-	-	-	-
特別収支差額(d)-(e)=(f)	-	-	-	-
一般財源調整額(g)	-	-	-	-
当期収支差額(c)+(f)+(g)	△38,696	△37,738	△40,389	△2,651
一般財源充当額	32,921	32,246	34,837	2,592
一般会計からの繰入金	-	-	-	-
一般会計への繰出金	-	-	-	-
再計	△5,776	△5,492	△5,552	△60

行政コスト計算書の主な増減理由(特徴的な事項)

勘定科目	決算額の主な内容
物件費	歴史と文化のまちづくり活動推進事業委託料554千円 令和2年度に新型コロナウイルス感染症の影響で多くの事業を中止したため、対前年度比が増
負担金・補助金・交付金等	吹田歴史文化まちづくり事業補助金:2,909千円 令和2年度に新型コロナウイルス感染症の影響で多くの補助事業を中止したため、対前年度比が増

◆キャッシュ・フロー収支差額集計表

(単位:千円)

区分	令和元年度	令和2年度 A	令和3年度 B	差額 B-A
行政サービス活動収入	865	803	769	△34
行政サービス活動支出	33,786	32,682	35,240	2,558
行政サービス活動収支差額	△32,921	△31,879	△34,471	△2,592
投資活動収入	-	-	-	-
投資活動支出	-	-	-	-
投資活動収支差額	-	-	-	-
財務活動収入	-	-	-	-
財務活動支出	-	367	367	△0
財務活動収支差額	-	△367	△367	0
収支差額 合計	△32,921	△32,246	△34,837	△2,592
一般財源充当額	32,921	32,246	34,837	2,592
一般会計からの繰入金	-	-	-	-
一般会計への繰出金	-	-	-	-
前年度からの繰越金	-	-	-	-

キャッシュ・フロー収支差額集計表の特徴的な事項

決算額の主な内容	行政サービス活動支出:指定管理委託料24,882千円ほか

◆単位あたりのコスト分析(「経常費用 小計(b)」を「実績」で割って円単位で算出しています。)

指標名	年度	実績	単位あたりコスト	分析内容(前年度との増減理由)
施設利用者1人あたりのコスト	令和元年度	25,575 人	1,547 円	歴史文化まちづくりセンター利用者1人あたり4,762円のコストがかかっています。新型コロナウイルス感染症の影響で利用人数が減少したため、1人あたりのコストが増加していますが、対前年度比は減少しています。
	令和2年度	6,672 人	5,777 円	
	令和3年度	8,643 人	4,762 円	

◆貸借対照表

(単位:千円)

勘定科目	令和2年度末 A	令和3年度末 B	差額 B-A	勘定科目	令和2年度末 A	令和3年度末 B	差額 B-A
現金預金	-	-	-	流動負債	827	772	△54
未収金	-	-	-	地方債	367	367	-
流動資産	-	-	-	短期借入金	-	-	-
財政調整基金	-	-	-	賞与引当金	460	406	△54
短期貸付金	-	-	-	未払金	-	-	-
徴収不能引当金	-	-	-	リース債務	-	-	-
その他流動資産	-	-	-	その他流動負債	-	-	-
有形固定資産	746,445	740,380	△6,066	固定負債	6,719	6,260	△460
土地	673,923	673,923	-	地方債	2,567	2,200	△367
建物・工作物	72,523	66,457	△6,066	長期借入金	-	-	-
リース資産	-	-	-	退職手当引当金	4,153	4,060	△93
建設仮勘定	-	-	-	リース債務	-	-	-
無形固定資産	-	-	-	その他固定負債	-	-	-
インフラ資産	-	-	-	負債の部合計	7,546	7,032	△514
有形固定資産	-	-	-	純資産	738,899	733,348	△5,552
土地	-	-	-				
建物・工作物	-	-	-				
建設仮勘定	-	-	-				
重要物品	-	-	-				
図書館資料	-	-	-				
投資その他の資産	-	-	-				
出資金	-	-	-				
長期貸付金	-	-	-				
基金	-	-	-				
徴収不能引当金	-	-	-	純資産の部合計	738,899	733,348	△5,552
その他債権	-	-	-	負債及び純資産の部合計	746,445	740,380	△6,066
資産の部合計	746,445	740,380	△6,066				

Ⅲ 財務構造分析

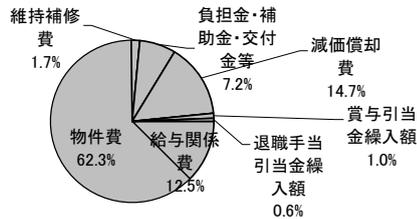
▽人にかかるコストの内訳

事業従事人数	常勤・再任用	会計年度任用等	特別職非常勤	合計(千円)
	月平均	年間従事延日数	年間従事延日数	
	0.7人	-日	-日	5,812
給与関係費等	5,812千円	-千円	-千円	
内、時間外勤務手当	180千円			

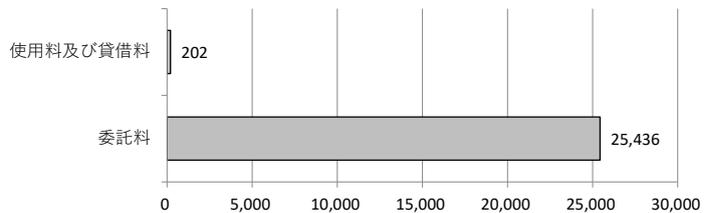
貸借対照表の主な増減理由(特徴的な事項)

勘定科目	増減理由
建物・工作物	歴史文化まちづくりセンター減価償却による6,066千円の減
地方債	償還払いによる367千円の減

▽経常費用の構成割合



物件費の内訳(単位:千円)



▽施設の概況

施設の名称	吹田歴史文化まちづくりセンター
取得年月日	平成15年(2003年)6月(供用開始)
建物・工作物の取得価額	264,550千円
建物・工作物の減価償却累計額	198,093千円
利用料金収入	722千円

▽分析指標

分析指標	(単位:%)			
	令和元年度	令和2年度 A	令和3年度 B	差 B-A
施設維持補修費比率	0.2	-	0.3	0.3
施設老朽化比率	70.3	72.6	74.9	2.3
受益者負担比率	2.0	2.0	1.8	△0.2
徴収不能引当率	-	-	-	-
一般財源充当比率	97.4	97.6	97.8	0.2
経常費用対公共資産比率	15.0	14.6	15.6	1.0

【参考:市保有施設全体の老朽化比率は57.6%】

Ⅳ 総括

▽分析結果の説明

- 物件費がコスト全体の62.3%を占め、そのうち施設管理に係る委託料が97.1%を占めています。
- 減価償却費がコスト全体の14.7%を占めています。
- 経常費用のうち60.5%は歴史文化まちづくりセンター指定管理委託料です。
- 新型コロナウイルス感染症の影響による施設利用人数の減少で、感染症拡大以前と比較して1人あたりのコストが増加しています。

▽分析結果を踏まえた事業の課題

施設老朽化比率は74.9%となっており、もともとが古民家を改修した施設のため、計画的な維持補修が必要です。歴史と文化のまちづくりに対する施設の果たす役割は大きいので、今後も新型コロナウイルス感染症拡大防止の対策を図りつつ、継続可能な事業のあり方を検討し、指定管理者と一層の連携に努め、市民満足度の高い施設運営を行うことが必要です。